

# グローバル・スタディーズ研究センター 2022年度プロジェクト

---

2022-1

2022年6月23日(木)・7月7日(木)開催

**CEGLOS 移動大学@みなくる「英語で読むアジア系アメリカ人の歴史」開催**

2019年に開催し、好評を博したあの講座が静岡に戻ってきます！移民の国・アメリカの社会は、日本の近未来の姿を映しているかもしれません。本講座では、静岡市で育ち、現在はカリフォルニア大学バークレー校講師の山中啓子先生を講師に迎え、バークレー校で学ぶアジア系アメリカ人学生たちが書いた「家族の移民史」を教材に、「移民として生きる」ことについて学びます。あなたも「移民として生きる」ことについて、共に考えてみませんか？

※できるだけ2回通しでの受講をお願いします。ご都合の悪い場合は、お申し込み時にお知らせください。

第1回 6月23日(木) 18:30~20:00

第2回 7月7日(木) 18:30~20:00

会場：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」地域交流スペース（静岡市立南部図書館）

参加無料 定員15名（申込順）※英語と日本語、両方の講義に対応できる人

お申込み・お問合せ ※チラシをご覧ください。

主催：静岡市（地域福祉共生センター「みなくる」）

企画運営：静岡県立大学（「ふじのくに」みらい共育センター）

グローバル・スタディーズ研究センター 担当：澤田

地域健康オープンカレッジ2022

CEGLOS移動大学@みなくる

CEGLOS=Center for Global Studies  
静岡県立大学国際関係学研究科附属の研究センター



# 英語で読むアジア系アメリカ人の歴史

## Asian American Immigration History

第1回

6月23日（木）  
18：30～20：00

第2回

7月7日（木）  
18：30～20：00

※できるだけ2回通しでの受講をお願いします。ご都合の悪い場合は、お申し込み時にお知らせください。

会場：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」地域交流スペース  
(南部図書館2階)

2019年に開催し、好評を博したあの講座が静岡に戻ってきます！

移民の国・アメリカの社会は、日本の近未来の姿を映しているかもしれません。  
本講座では、静岡市で育ち、現在はカリフォルニア大学バークレー校講師の山中啓子先生を講師に迎え、バークレー校で学ぶアジア系アメリカ人学生たちが書いた「家族の移民史」を教材に、「移民として生きる」ことについて学びます。  
あなたも「移民として生きる」ことについて、共に考えてみませんか？



【講師】山中啓子先生（カリフォルニア大学バークレー校講師）  
静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター客員研究員  
略歴：静岡女子大学卒業、コーネル大学にて博士号（社会学）取得



定員  
15名  
(申込順)

※英語と日本語、両方の講義に対応できる人

難易度★★★  
大学授業レベル

参加  
無料

お申込み・お問合せ

※窓口・電話・メールで受け付けます

静岡市地域福祉共生センター「みなくる」  
静岡市駿河区南八幡町3-1 南部図書館2階  
☎ 054-201-9010 (9時～21時)  
✉ mina.crc@u-shizuoka-ken.ac.jp



ホームページ

※メールの場合は、件名を「山中先生講座」とし、お名前・年齢・緊急連絡先をお知らせください

2022-2

2022年7月5日（火）開催

## Zoom 講演会「帝国の遺産」とスポーツ——エンパイアゲームズからコモンウェルスゲームズへ——（7月5日開催）のお知らせ

このたび、静岡県立大学国際関係学部の主催、そして本センターおよび広域ヨーロッパ研究センターの共催で、高知大学の川本真浩先生をお招きし、ZOOM 講演会を開きます。奇しくも今年は4年に一度のコモンウェルスゲームズ開催年、7月末に開会します。ご関心のあられる方も「コモンウェルスゲームズって何？」という方も、みなさまふるってご参加ください。

日時 2022年7月5日（火）午前9:00-10:30

講演会の参加方法について

### 【学内の方へ】

ご自身の Zoom でご参加いただいても、草薙キャンパス 3316 教室で視聴参加いただいても結構です。

本講演会は本学部の講義の一部となっております。そのため、川本先生と教室（3316 教室）を Zoom でつなぎ、履修者は教室で講演会に参加できるようにします。

### 【学外の方へ】

Zoom でのご参加をお願いいたします。

### 【Zoom 参加の方法】

ご参加には登録が必要です。以下のページからご登録ください。

<https://bit.ly/75empire>

### 【Zoom 参加関連のご注意】

登録しても Zoom 情報がメールに届かない場合は、ご登録のメールアドレスが受信拒否している可能性があります。その場合は 別のアドレスで再登録してください。それでもうまくいかない時は下記の問い合わせ先にご連絡ください。

当日のご参加時は、ご登録のお名前表記でご参加ください（本学の学生の方は、「学籍番号 氏名」の表記でご参加ください）。

主催： 静岡県立大学国際関係学部

共催： 静岡県立大学国際関係学研究科附属広域ヨーロッパ研究センター、グローバル・スタディーズ研究センター

2022 年度学部研究推進費（共同研究者：坂巻静佳・孫暁剛・冨澤かな・奈倉京子）の助成を受けて開催

問い合わせ先 冨澤かな（t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp）

## 講演会概要

1930年、カナダの都市ハミルトンでイギリス帝国の総合スポーツ大会であるエンパイアゲームズが開催された。その後4年ごとに開催されるようになった大会は、20世紀中葉以降の参加国／地域の急増と数度の大会名称変更を経て、21世紀の今もコモンウェルスゲームズとして開催されている。また1931年にはイギリス本国と帝国内の白人自治領を中心としたコモンウェルス（英連邦）が設立された。このコモンウェルスも、第二次世界大戦後にアジア、アフリカ、西インド諸島などの新興独立国が続々と加盟し、また国際情勢の変化をうけて、変貌をとげてきた。これらスポーツ界と政界のコモンウェルスは、「単一の構想や共通の理念に基づき一体のものとして形作られた」わけではなく、またいずれも「帝国の遺産」という一言で片づけられるものでもない。本講演では、エンパイアゲームズの始まりからコモンウェルスゲームズの現在までをたどりながら、2つのコモンウェルスとその歴史的変容、帝国意識とナショナルアイデンティティ、さらにはスポーツと政治の関係を歴史的に考えてみたい。

#### <講師プロフィール>

川本真浩 かわもとまさひろ 奈良県出身 高知大学人文社会科学部・教授 専門分野はイギリス近現代史、帝国＝コモンウェルス史、スポーツ史。主な研究テーマとして、イギリスで開催された国際博覧会、イングランドのパジエント（野外歴史劇）ブーム、エンパイアゲームズ及びコモンウェルスゲームズなど。イギリス発祥で500年以上の歴史をもちコモンウェルスゲームズ公式競技でもあるローンボウルズについては歴史研究とあわせて実技授業も担当する。最近はスポーツやイベント参加といった「余暇」「レジャー」に関心を引き戻してイギリス／帝国／コモンウェルスの近現代史を再検討しようと考えている。



# 「帝国の遺産」 とスポーツ

—エンパイアゲームズからコモンウェルスゲームズへ—



2022年7月5日(火) 9:00～10:30

Zoom開催

講師 かわもと まさひろ  
**川本 真浩** 高知大学人文社会科学部・教授

profile

奈良県出身。専門分野はイギリス近現代史、帝国＝コモンウェルス史、スポーツ史。主な研究テーマとして、イギリスで開催された国際博覧会、イングランドのパジェント（野外歴史劇）ブーム、エンパイアゲームズ及びコモンウェルスゲームズなど。イギリス発祥で500年以上の歴史をもちコモンウェルスゲームズ公式競技でもあるローンボウルズについては歴史研究とあわせて実技授業も担当する。最近ではスポーツやイベント参加といった「余暇」「レジャー」に関心を引き戻してイギリス／帝国／コモンウェルスの近現代史を再検討しようと考えている。

1930年、カナダの都市ハミルトンでイギリス帝国の総合スポーツ大会であるエンパイアゲームズが開催された。その後4年ごとに開催されるようになった大会は、20世紀中葉以降の参加国／地域の急増と数度の大会名称変更を経て、21世紀の今もコモンウェルスゲームズとして開催されている。また1931年にはイギリス本国と帝国内の白人自治領を中心としたコモンウェルス（英連邦）が設立された。このコモンウェルスも、第二次世界大戦後にアジア、アフリカ、西インド諸島などの新興独立国が続々と加盟し、また国際情勢の変化をうけて、変貌をとげてきた。これらスポーツ界と政界のコモンウェルスは、「単一の構想や共通の理念に基づき一体のものとして形作られた」わけではなく、またいずれも「帝国の遺産」という一言で片づけられるものでもない。本講演では、エンパイアゲームズの始まりからコモンウェルスゲームズの現在までをたどりながら、2つのコモンウェルスとその歴史の変容、帝国意識とナショナルアイデンティティ、さらにはスポーツと政治の関係を歴史的に考えてみたい。

ご参加にはご登録が必要です。詳しくは以下をご覧ください。  
<https://bit.ly/lecture-empire>



2022-3

2022年11月

**「映画で知ろう！移民・難民Ⅲ」を開催しました**

「映画で知ろう！移民・難民Ⅲ」ご参加の皆様へ

過日は静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター主催、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」共催「映画で知ろう！移民・難民Ⅲ」にお越しいただき誠にありがとうございました。ご参加いただいた皆様にはスタッフ共々大きな感謝と皆様とともに映画の上映と監督からの解説を堪能いただき大きな喜びを感じております。

トーマス・アッシュ監督の「牛久」では、体を張った撮影手法から伝わる証言記録の説得力を感じずにはいられませんでした。不法滞在者として収容された人々の絶望と垣間見られる解放に向けた希望との落差を巧みに描写していると思いました。

小原浩靖監督の「日本人の忘れものーフィリピンと中国の残留邦人」では、残留邦人を救おうとする戦後の75年を綿密に跡付けることにより、結果として日本の今を照らし返す迫力を感じました。日本人と認めてほしいとの願いが人々の尊い活躍につながったことが救いであると思いました。

ご参加いただいた皆様には、この移動大学のテーマである「移民・難民」について知識を深めていただきつつ、監督との直接のやり取りで有意義な時間にしていただいたものと確信しております。ご多忙の中、グローバル・スタディーズ研究センターの企画にご参加いただきありがとうございました。来年も同様の趣旨で皆様と再びお会いしている日が来るよう計画しているところです。今後ともよろしくお願い致します。

グローバル・スタディーズ研究センター長 澤田敬人

\*上映作品の詳細はチラシをご覧ください。



# 映画で知ろう！移民・難民 III

ドキュメンタリー映画を通じて、現在、入国管理センターで長期収容を強いられている人びとと、第二次世界大戦後にフィリピンと中国に残留を強いられた人びとの証言に耳を傾けてみましょう。いずれも会場は静岡市地域福祉共生センター「みなくる」で、上映後に映画監督から解説をいただきます。

「おもてなし」の国、日本——？

収容者たちから語られる胸を突く言葉の数々

この国の「偽りの共生」が暴かれる



公式 HP

【第1回】2022年11月5日（土）

## 「牛久」

在留資格のない人、国外退去を命じられた外国人を「不法滞在者」として強制的に収容している施設の一つが、茨城県牛久市にある東日本入国管理センター。いわゆる「牛久」。トーマス・アッシュ監督は「隠し撮り」という手法で、面会室で訴える彼らの証言を記録し続けた。

＜解説＞トーマス・アッシュ（映画監督）

＜司会・進行＞高畑幸（国際関係学部・教授）

【第2回】2022年12月17日（土）

## 「日本人の忘れもの

### —フィリピンと中国の残留邦人—

「私を日本人と認めてほしい！」—フィリピン残留日本人  
「私は日本人。でも言葉がわからないの！」—中国残留孤児。2つの国の残留者たちを救おうとする市民たちの活躍を描きながら、私たちが生きる「日本という国の今」を浮き彫りにしてゆく。

＜解説＞小原浩靖（映画監督）

＜司会・進行＞米野みちよ（国際関係学部・教授）



公式 HP

■ 時間 いずれも9:15 開場、9:30 本編スタート、終了後に解説、12:00 まで

■ 会場 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」地域交流ホール（静岡市駿河区南八幡町3-1 南部図書館 2階）

■ 入場無料 定員：100人（先着順）

### 申込方法

窓口・電話・メールで【参加希望日、お名前、緊急連絡先】をお知らせください  
（※メールの場合は、件名を「映画上映参加希望」としてお送りください）

静岡市地域福祉共生センター「みなくる」

TEL 054-201-9010 メール mina.crc@u-shizuoka-ken.ac.jp



「みなくる」HP

2022-4

2022年11月16日(水)開催

センター研究員がカリフォルニア大学バークレー校で移民研究のセミナー報告

来る2022年11月16日(水)10:00(日本時間)より、カリフォルニア大学バークレー校日本学研究センターのオンラインセミナーで当センターの高畑幸研究員と米野みちよ研究員が移民研究の成果を報告します。

**テーマ Who Cares for Japan's Aging Society? How Are Immigrant Nurses and Care Workers Faring in Japan ?**

**Speaker 1**

Michiyo Yoneno-Reyes

Economic Partnership Agreements (EPA) as Forerunner and Benchmark: Revisiting the EPA Program in the Proliferation and Diversification of Foreign Nurses and Care Workers in Japan

**Speaker 2**

Sachi Takahata

Filipino Marriage Migrants in Japan as Care Workers through Re-skilling

詳細は URL からご確認ください。

[https://events.berkeley.edu/index.php/calendar/sn/ieas/?event\\_ID=149211](https://events.berkeley.edu/index.php/calendar/sn/ieas/?event_ID=149211)



2022-5

2022年12月16日（金）開催

「自著を語る」シリーズ 聖地の紛争とエルサレム問題の諸相—イスラエルの占領・併合政策とパレスチナ人—

本センターは2022年12月16日（金）18時より、「自著を語る」シリーズ講演会「聖地の紛争とエルサレム問題の諸相—イスラエルの占領・併合政策とパレスチナ人—」を開催いたします。

**【概要】**

パレスチナ／イスラエルの平和に立ちほだかるエルサレム問題、そしてその中核に位置する「聖地の紛争」。争いはいかに始まり、どのように続いてきたのか。本書は、看過されがちだったパレスチナ人の視点を軸に、複雑化する紛争の多様な貌を照らし出した作品です。

今回の「自著を語る」では、書籍の紹介に加え、地域研究という学問の難しさと魅力、さらには博士論文の執筆と刊行に至る経験もお話します。学部学生から若手研究者まで色々な方々の参加をお待ちしています。

**【日時・会場】**

12月16日（金）18時～19時30分

国際関係学部棟 3105 教室（Zoom 配信あり）

申し込みフォーム <https://forms.gle/DcvVBioxhgHG6Fm56>

**【講演者】**

山本健介（静岡県立大学 国際関係学部）

**【問い合わせ】**

企画責任者 山本健介 [k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp)

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター (CEGLOS) 主催

## 「自著を語る」シリーズ

# 聖地の紛争とエルサレム問題の諸相

—イスラエルの占領・併合政策とパレスチナ人—

晃洋書房、2020年

### 【日時・会場】

12月16日 (金) 18時~19時30分

国際関係学部棟3105教室 (Zoom配信あり)

申し込みフォーム <https://forms.gle/DcvVBioxhgHG6Fm56>

### 【講演者】

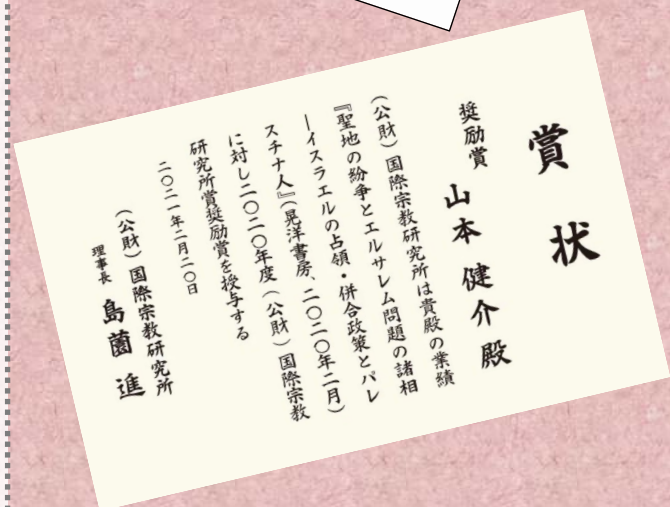
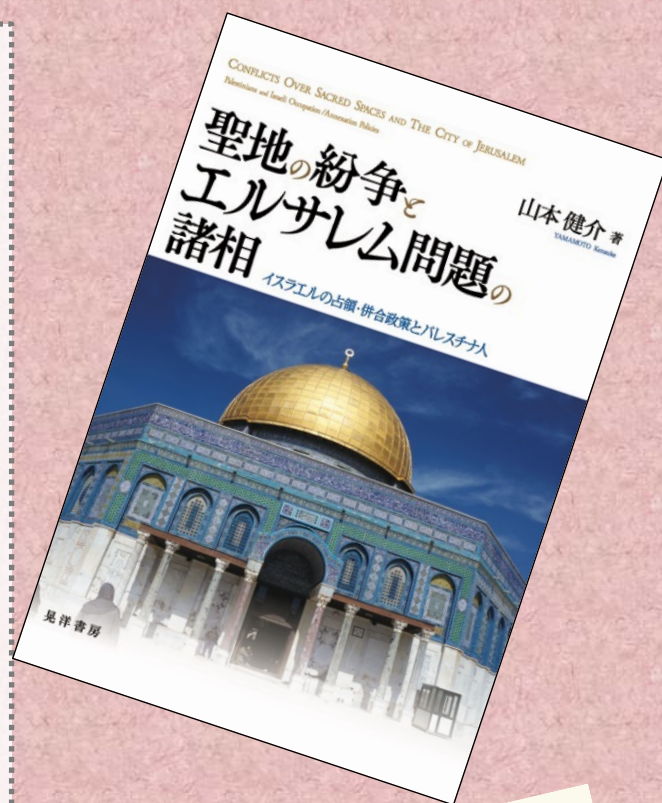
山本健介 (静岡県立大学 国際関係学部)



### 【概要】

パレスチナ／イスラエルの平和に立ちはだかるエルサレム問題、そしてその中核に位置する「聖地の紛争」。争いはいかに始まり、どのように続いてきたのか。本書は、看過されがちだったパレスチナ人の視点を軸に、複雑化する紛争の多様な貌を照らし出した作品です。

今回の「自著を語る」では、書籍の紹介に加え、地域研究という学問の難しさと魅力、さらには博士論文の執筆と刊行に至る経験もお話します。学部学生から若手研究者まで色々な方々の参加をお待ちしています。



### 【問い合わせ】

企画責任者 山本健介

[k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp](mailto:k-yamamoto@u-shizuoka-ken.ac.jp)

2022-6

研究報告会 感情労働と生産的介護のはざままで～ケアの価値をフィリピン人介護者と介護機器を通して考える～

**報告者**

池内須摩（CEGLOS 訪問研究員、カリフォルニア大学サンタバーバラ校東アジア言語文化学部准教授）

**日時**

2023 年 2 月 23 日（祝/木）11:00 -12:00

**場所**

ZOOM 開催

お申し込みは [こちら](https://forms.gle/E9Lfi42hh3GdkHNVA) (https://forms.gle/E9Lfi42hh3GdkHNVA)

**要旨**

人手不足が指摘されて久しい介護業界では、フィリピン人女性を中心に定住外国人の介護参入が以前から進んでいたが、近年では技能実習生の増加が著しい。同時に「科学的介護」「生産力向上」を掲げる介護ロボットの開発普及が政府の舵取りのもと進行中である。片や移住民、片や自動化による「介護力」増強がケアの価値にどのような波紋を起こすのかを考察する。

**講演者紹介 Suma Ikeuchi, Ph.D.**

”Jesus Loves Japan: Return Migration and Global Pentecostalism in a Brazilian Diaspora” (Stanford University Press, 2019) の著者

2020 Clifford Geertz Prize, Society for the Anthropology of Religion

2020 Francis K. Hsu Prize, Society for East Asian Anthropology

**お問合せ**

米野みちよ michiyoyonenoreyes[at]u-shizuoka-ken.ac.jp

静岡県立大学 国際関係学研究科 グローバル・スタディーズ研究センター  
Center for Global Studies (CEGLOS), University of Shizuoka

## 研究報告会

# 感情労働と生産的介護のはざままで ～ケアの価値をフィリピン人介護者と介護機器を通して考える～

## 池内 須摩

静岡県立大学 CEGLOS 訪問研究員

カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 東アジア言語文化学部 准教授

2023年2月23日（祝/木） 11:00 -12:00

ZOOM 開催

登録は [こちら](#)

または



### 要旨

人手不足が指摘されて久しい介護業界では、フィリピン人女性を中心に定住外国人の介護参入が以前から進んでいたが、近年では技能実習生の増加が著しい。同時に「科学的介護」「生産力向上」を掲げる介護ロボットの開発普及が政府の舵取りのもと進行中である。片や移住民、片や自動化による「介護力」増強がケアの価値にどのような波紋を起こすのかを考察する。

講演者紹介 Suma Ikeuchi, Ph.D.

*Jesus Loves Japan: Return Migration and Global Pentecostalism in a Brazilian Diaspora* (Stanford University Press, 2019) の著者

2020 Clifford Geertz Prize, Society for the Anthropology of Religion

2020 Francis K. Hsu Prize, Society for East Asian Anthropology



お問合せ：米野みちよ

michiyonenoreyes[at]u-shizuoka-ken.ac.jp



2022-7

2022年3月11日(土)開催

### 『A Kali Temple Inside Out』オンライン上映会&トークイベント

本センターは3月11日(土)14:00-16:30に、映像人類学の手法でインドUP州カーンプルのとあるカーリー寺院周辺の人々の日々を映し出したドキュメンタリー『A Kali Temple Inside Out』(Dipesh Kharel・Frode Storaas 監督、2018年)をオンライン上映し、ディペシュ・カレル監督とインド研究者の宮本久義氏を迎えてのトークイベントを開催します。

一つのヒンドゥー寺院を核に、時にイスラーム聖人廟やシク教のグルドワーラーへと、多様な広がりを見せる人々の信仰と生活の様一まさに "A Kali Temple Inside Out"を伝える、貴重な映像です。新たに日本語字幕をつけての上映となります。ぜひご覧ください。

インドや宗教や人類学に興味を持つ学生の方々にもお知らせをいただけましたら大変ありがたくぞんじます。

#### 【ご参加方法】

Zoom と YouTube を利用したオンラインイベントです。

3月9日(木)までに以下のURLからご登録ください。

<https://bit.ly/Kali0311>

料金：無料

定員：なし (Zoom 配信定員を超えた場合は YouTube によるライブ配信をご案内する可能性があります)

#### 【プログラム】

14:00 ご挨拶とご説明

14:10 オンライン上映

15:45 トークイベント (日本語と英→日通訳) (16:30 終了予定)

#### 【ゲストスピーカー】

ディペシュ・カレル (Dipesh Kharel) 映像人類学者・映像作家。東京大学情報学環客員研究員・非常勤講師。ネパール、日本、インドなどをフィールドに、映像人類学の成果を数多く発表している。近作に、コロナ禍で帰国困難になったベトナム人を受け入れてきた寺院を扱う『徳林寺の空の下～別れと出会い～』(2022)がある。

宮本久義 (みやもと・ひさよし) 元東洋大学教授。インド哲学・ヒンドゥー教思想研究者。サーンキヤ、ヨーガの思想から、聖地と巡礼、多宗教・多文化共生論まで、インドの思想と

実態を幅広く研究する。著書に『ヒンドゥー聖地 思索の旅』(2003年)、『宗教の壁を乗り越える—多文化共生社会への思想的基盤』(共編著、2016年)など。

司会： 冨澤かな (静岡県立大学 CEGLOS)

主催： 静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター (CEGLOS)

問い合わせ： 冨澤かな t-kana@u-shizuoka-ken.ac.jp



オンライン上映&トークイベント

# A Kali Temple Inside Out

カーリー寺院の人々その内と外で

Dipesh Kharel・Frode Storaas 監督 2018年

2021年英国王立人類学協会(RAI) The Richard Werbner Award 受賞作

3/11(土) 14:00-16:30

オンライン開催(要申込) 無料

ZOOM/YouTube

FREE

さまざまな宗教問題が報じられるインド。そこでは実際のところ、どんな信仰のもとに、どんな日常が営まれているのだろうか。静岡県立大学 CEGLOS では、映像人類学の手法で UP 州カーンプルのとあるヒन्दゥー寺院周辺の人々の日々を映し出したドキュメンタリー『A Kali Temple Inside Out』をオンライン上映し、ディペシュ・カレル監督とインド研究者の宮本久義氏を迎えてトークイベントを開催します。一つの寺院を核に、時にイスラーム聖人廟やシク教のグルドワラーへと、多様な広がりを見せる人々の信仰と生活の様一まさに“A Kali Temple Inside Out”を伝える貴重な映像に、新たに日本語字幕を加えての上映です。ぜひご参加ください。

## プログラム

program

14:00 …… ご挨拶とご説明

14:10 …… オンライン上映

15:45 …… トークイベント(日本語と英→日通訳)

(16:30 終了予定)

## ゲストスピーカー

guest speaker

**ディペシュ・カレル** (Dipesh Kharel)

映像人類学者・映像作家。東京大学情報学環客員研究員・非常勤講師。ネパール、日本、インドなどをフィールドに、映像人類学の成果を数多く発表している。近作に、コロナ禍で帰国困難になったベトナム人を受け入れてきた寺院を扱う『徳林寺の空の下〜別れと出会い〜』(2022)がある。

**宮本 久義** (みやもと ひさよし)

元東洋大学教授。インド哲学・ヒन्दゥー教思想研究者。サーンキヤ、ヨーガの思想から、聖地と巡礼、多宗教・多文化共生論まで、インドの思想と実態を幅広く研究する。著書に『ヒन्दゥー聖地 思索の旅』(2003年)、『宗教の壁を乗り越える—多文化共生社会への思想的基盤』(共編著、2016年)など。

司会：富澤 かな(静岡県立大学 CEGLOS)



本作の予告編 ▶ <https://youtu.be/OZtGHBMWHM8>

Zoom と YouTube を利用したオンラインイベントです。

参加方法 3月9日(日)までに右記の URL または二次元コードからお申込みください。 <https://bit.ly/Kali0311>

(Zoom 配信定員を超えた場合は YouTube によるライブ配信をご案内する場合があります)



2022-8

2023年3月14日(火)開催

## 静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センターStudy CIRcle2022-2023 成果報告会のご案内

静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生一人一人が自分の興味に従って研究を深めるプロジェクト、Study CIRcleを行っています。今年度は二名の学生が参加し、自らの関心についての探求を深めてきました。Study CIRcleの特徴は、学生の興味関心に応じていただける外部の先生方をお招きして学生に対して、直接レクチャーをいただくという仕組みです。レクチャーを通じて、一段と学びを深めていくわけです。また、学生に対しては、卒業生と現職教員がメンターを務め、適宜アドバイスを行っています。

### 1 日時

2023年3月14日(火) 19時～21時

### 2 場所

オンライン

### 3 報告者・報告テーマ

・平野穂乃佳さん(国際関係学部2年)

静岡市内における官民連携と協働について:SDGsの登場から「協働」という言葉に注目が集まった。「協働」が地域の中でどのように形成され、活動となるのかを検討したい。

・野田萌々香さん(国際関係学部2年)

障害とソーシャルインクルージョン: 障害者の社会的包摂について、日本の障害学に触れながら、介護福祉の現場で働く支援者の立場から考える。

### 4 プログラム

5分 開会挨拶・趣旨など

20分 平野さんからの報告

5分 Q&A

20分 野田さんからの報告



5分 Q&A

5分 休憩

15分 メンターからのコメント 3人

20分 フロアからのQ&A

10分 平野さん、野田さんからのリアクション

15分 挨拶・アンケート

## 5 申込み

下記 google form にお申し込みください

<https://forms.gle/KJKt6mYki5G7GQW99>

3月13日が締め切りで、その後、zoomURLをお知らせします。